

フキ (キク科)

北海道から沖縄までいたるところに自生する。栽培が始まったのは古く、平安時代といわれる。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培		定植 ◎											
		収穫											
		2年目以降		フキノトウ		フキ							

1) 適地

高温や乾燥に弱い野菜です。肥えた、保水力に富んだ砂壤土が適しています。一方、畝間に水がたまると根腐れを起しやすいので排水を良くします。また、木の陰など日陰になるような場所が適しています。

2) 品種

栽培品種として利用されているのは、ほとんどが「愛知早生」です。自生している山フキの地下茎を植えつけても栽培できます。

3) 作り方

【圃場の準備】1m²当たり堆肥2kg、苦土石灰100g、ようりん40g、高度化成肥料100g、油粕50gを施用し、耕耘した後、幅150cmの畝をたてます。

【苗の準備】定植する地下茎は、太いもののほうが茎葉の生育は旺盛になります。地下茎はそれぞれ3～5節ごとに切断します。

【植えつけ】3月中下旬頃の萌芽前に定植します。条間30cm、株間20～30cmの3条となるよう、それぞれの地下茎を寝かせて深さ5～10cmの溝を掘って埋めます。定植後は十分に灌水し、乾燥防止のため敷きワラをします。

【灌水】乾燥に弱いので、畝の表面があまり乾かないように、散水チューブなどで2～4日に1回灌水します。

【追肥】定植後2か月ごとに高度化成肥料を1m²当たり30g株間に施します(9月中下旬ごろまで3回)。

【2年目以降の施肥】毎年2月下旬頃に1m²当たり堆肥1kg、苦土石灰100g、ようりん30g、高度化成肥料100g、油粕50gを施し、表面を軽く耕します。追肥は収穫が終わった5月下旬頃と8月下旬頃に、それぞれ高度化成肥料を1m²当たり150g施用します。

【収穫】最初の葉が伸長し、次いで2番目の葉が伸長した頃に最初の葉を収穫します。収穫し遅れると軸が硬くなってしまうので、注意します。春に生じるフキノトウは、放置しておくとも株に負担がかかるので、すべて収穫しましょう。

4) 病虫害防除

害虫としては、アブラムシ、アザミウマ、フキノメイガ、ヨトウムシやハダニが、病害では、うどんこ病が発生しますので、登録農薬で適宜防除します。